

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

社会福祉法人マハヤナ学園

マハヤナ第二保育園

1. 活動のテーマ

「ボールと仲良くなろう ～投げる・捕る遊びから広がる探究活動～」

<テーマの設定理由>

子どもたちは日頃から戸外遊びやボール遊びに親しんでおり、「遠くに投げたい」「狙った場所に当てたい」といった興味を持つ姿が見られていた。

そこで、“投げる・捕る”という身近な動きを通して、「どうしたらうまく投げられるのか」「捕りやすいボールとは何か」などを、自分たちで考え、試し、気づく探究活動へつなげたいと考え、本テーマを設定した。また、友だちと一緒に活動する中で、協力する楽しさや挑戦する気持ちを育てたいと考えた。

2. 活動スケジュール

- ① 1ヶ月目 ボールと仲良くなろう
- ② 2ヶ月目 投げ方を考えよう
- ③ 3ヶ月目 ボールを捕ってみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

新聞紙、ガムテープ、玉入れ用のかご
フラフープやラバーリング、ボール

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・ 全3回の活動を通して、子どもたちは“投げる・捕る”遊びを楽しみながら、自分なりに考えたり工夫したりする姿が見られた。
第1回では新聞紙でボールを作り、ボール遊びや玉入れを行った。第2回では「どうしたらうまく投げられるか」を考えながら実際に試し、投げ方のコツを学んだ。第3回では、段階的に“捕る”活動へ挑戦し、最後はチームで協力しながら活動を楽しんだ。

〈活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

- ・ 活動中には、「もっと遠くへ飛ばしたい!」「こうすると捕りやすいよ」などの声が聞かれた。最初は難しそうにしていた子どもも、友だちや保育者、講師の関わりを通して繰り返し挑戦する姿が見られた。また、友だち同士で投げ方や捕り方を伝え合ったり、成功を一緒に喜んだりする姿も見られた。保育者は子どもたちの気づきや工夫を認めながら、活動が深まるよう関わった。



5. 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

“投げる・捕る”という遊びを通して、子どもたちは自分で考えたり、友だちの姿を見て試したりしながら、主体的に活動へ参加していた。

また、繰り返し挑戦する姿や、友だちと協力しながら楽しむ姿が多く見られた。今後も、子どもの「やってみたい」という気持ちを大切にしながら、探究活動につなげていきたい。